

世界に発信する アーティストたち

No.1 土田康彦 TSUCHIDA YASUHIKO



ヴェネチア・ガラスの本拠地・イタリアの
ムラノ島にアトリエを構える唯一の日本人
アーティスト・土田康彦

土田康彦が「絵描き」になりたい一心で、単身、ヨーロッパに旅立ったのは1988年。パリなど7年間の旅の末、ヴェネチアに留まり、そこから本格的なアーティストとしてデビューしていった。08年には、オープン国際彫刻展に日本代表として出展、最優秀グランプリを受賞し、国際的なアーティストとしての名を記した。主に海外を中心に活躍してきた土田康彦が、今回、これまでの仕事を総括する展示と、新作を日本で公開する。

——土田さんは、早くからヨーロッパに行っていますが、きっかけは何ですか。

土田 それは小学校の高学年の時に明確に描いていた夢なんです。単純に「絵描き」になりました。ただの放浪の旅をして、貧しく生活をして、死んで亡くなったなら絵が売れるようになるんだという一般にある話を信じていて、それが普通で、それしかないと思っていたわけです。そのままヨーロッパに出て行って、アルバイトしながらやっていけばいいと、思っていたんです。ちょっと成長してからは簡単にアルバイトも見つからないだろうし、そして、アルバイトが見つかったとしても給料がまさか貰えるとは思わなかった。レストランで働けば、まかないくらいなら食べさせてもらえるから、生きては行けるだろうという感覚でした。

——料理学校を卒業してすぐ渡欧したのは、そうした計画でだったわけですね。

土田 そうです。絵描きになることだけを考えていました。

——そもそも絵描きになるという夢はどこから来たと思えますか。

土田 僕は母親を小さい頃に亡くしたので、母親の残像というのがとても少ないんです。少ないが故によく覚えてるんです。僕と母親が居て、僕の祖母が、いきなり家にきて母を叱っているわけなんです。たぶん病院から母が抜け出してきたんだと思います。痛だった。その後すごく母親が激怒して、祖母と喧嘩しているんですけど、その時、母親は絵を描いていたんです。僕は母親がすごく怒っているから怖くなって、部屋の片隅に座り込んでいたんです。母親はテーブルの上にあった絵の具をひっくり返したんです。それがまるでジャクソン・ポロックの絵のように、壁に飛び散った。母親とやさしい祖母が大喧嘩しているわけですから、その印象がすごくある。祖母も生きていたら今百歳くらいですがア



《麗しの蝶、夢と希望に向かって》

夢は毎日コツコツ いい仕事ができるということ

ことをインタビューしている場面を初めて見たんですけど、要するに弟子として教えた子が2番手3番手としてあがってきた。が、将来的には料理人ではなく、アーティストになることは僕らみんな分かっていたんだ、ということをやっています。今にして思うと無礼なことをしていたことに気がきましたが、でも、寛容に受けとめていただいたと感謝しています。

——最終的に、ヴェネチアのムラノ島に落ち着きますが、どんな理由からですか。

土田 映画監督のウディ・アレンが世界でもっとも美しい街を3つ上げると言われたら、ニューヨーク、パリ、ヴェネチアと芸術家の視点から答えたと思うんですけど、もちろんピカソにしてもフンデルトワッサーもそうでしたが、モノづくりの人間なら生涯のうちに一度はヴェネチアに住んでみたいという思いが、絶対あると思うんです。そのヴェネチアにいると無意識のうちにガラス職人の島なので、当然ガ

すか。

土田 そうでしょうね。——とにかく、絵描きを目指してヨーロッパに渡ったのは19歳で、その後、4年で個展を行っていますね。

土田 勤めながら絵を描いていました。レストランに在籍している時にもすでにイタリアと、スロベニアの国境にトリエステ

ティストでした。僕はその後のろい家族の問題があって、母親のことができません。今まで経っているんですけど、あまりにも、母親の思い出、母親のことを知らない故に、その数少ない母親との思い出が鮮明に残っている。

——それで、絵というものに強烈な思いがあったということ



《ヴェニス、東洋と西洋の狭間で》

略歴

1969年大阪市生まれ。88年辻調理師専門学校卒業と同時に日本を離れ、パリで食と芸術の道を目指す。92年からイタリア・ヴェネチアへ住まいを移す。95年からムラノ島にてガラス制作に携わり、翌年スキアヴォン・ガラス社アートディレクターに就任。96年に発表した、日本の竹をモチーフとするガラス彫刻『バンブー・コレクション』が絶賛され、世界各国で展覧会を開催するようになる。2000年ヴェネチア・ガラス研究所理事、03年には理事長就任。04年デュッセルドルフにて名誉技術賞受賞。08年トスカーナ・グロセト市より文化振興貢献者褒賞受賞。同年、オープン国際彫刻展に日本代表として出展、最優秀グランプリ受賞。10年、三宅一生「IM10」プロジェクトのコンペに招待参加。ロルッソ・ギャラリーにて個展（アンドリア、イタリア）、その他個展多数

ラスも作ってみたい、ガラスという素材で形にしてみたいというのが生まれてきます。無意識のうちにガラスに気が傾くような空気があります。僕もまったく最初はそれでしたね。最初はキャンパスの上にコーラージュを置いて、自分で吹いたものじゃなくて、ガラスの壊れたものとか、綺麗な色のガラスの塊を絵の上に使ったのが、それが始まりです。それがだんだん塊自体を自分が作りたくなって、最後

には自分で工房を主宰しましたが、職人になろうと思って進んだ道ではないですね。ガラスという素材に魅かれて、その素材を表現しようという芸術の一部に使いたいと、どんだんのめり込むことになりました。
——表現の幅が広がったということと同時に、ガラスを素材に使った作品で大きな評価も得ることになりましたね。今回、日本で発表する作品はどんな内容になりますか。

土田 これまで僕を知らなかった多くの方々に今までの作品全体が見渡せるようにしたいと思っています。それがひとつと、もうひとつは「白のシリーズ」です。「光と影」は僕のコンセプトのひとつで、「一寸先は闇」という言葉があるじゃないですか、それを僕は、「一寸先は光」と言っています。芸術家の人生で、本当に光を浴びる瞬間なんて、生涯に一回あるかないかです。もしくは一回も光にあたらずに

死んでいくアーティストは五万といます。ですからアーティストの日常生活はいつも闇の中で、あがきもきながら、たかが一瞬でもいいから光を浴びることを夢見ながら、ポジティブに日々を送っていくというその精神が芸術家の醍醐味なんだと思って、形にしたものが、「白のシリーズ」です。
——土田さんの作品には言葉が重要な意味を持っていると聞いていますがどういうことですか。
土田 最初に、この想いを形にしたいというものがありません。芸術家ならだれでもそうだと思いますが。僕の場合、急に作品の完成形が一瞬見えるんです。それはどこかのギャラリーかミュージアムの展示台にのってスポットに当たっていると、まるで、ものすごく綺麗に見えるんです。それで、それ作ろうかと思うじゃないですか。ところが実際手を動かして作ろうとすればするほど、思いだそうとすればするほど、だんだん霧がかかってきて、あの時あれほど鮮



《ヴィーナスの誕生》



《光》

明に見えたものがどんだん遠ざかったり、どんだん霧がかかってくる。それを取り除く作業が制作ということだと言えるんですけど、いきなりデザインを思い起こしながら鉛筆を動かすのではなくて、その時、考えていたことが一瞬見えたわけですから、その自分の想いかメッセージとかコンセプトを完全に文章化していったって、その次にデザイン化して、次にガラスにするという工程に入るわけです。その文章がきれいに固まるとけつこう形になりやすいです。
——コンセプトを言語化して明確にするまで形にしないという

ことですか。
土田 なぜ僕は言葉にするのかと言うと、10代の後半に日本を出たがために、日本で仕事をしたことのないので、社会人として持つべき言葉の常識がなくて、正確な正しい日本語が話せてないんじゃないかと思うんです。ニューヨークに行ったり、パリに行ったりした時に、その言葉が完璧に話せているかと言うと、当然話せてないですし、日本を離れば離れるほど、日本語を忘れますよね。生きて行けばいくほど、自分のちゃんとした母国語はどんだんなくなるわけです。かといって、イタリア語がどんだん

どんだんまくなるかと言うとそうなるわけじゃない。そうすると自分が本当に伝えたい思い、本心と言うのが、なかなか言葉で表現できなくなるストレスが年々たまってくるわけです。ですから丁寧な言葉を使って書くということが僕には大切なことなんです。
——最後になりますか、アーティストとしてどんな夢を抱いて、ここまで仕事をつづけてこられたのですか。
土田 ただ本当に朝から晩まで、例えば、夕方僕は死ぬならその午前中まで制作して、死ぬのが夢です。僕は仕事と遊び（ブ

●ヴェネチアン・ガラス 光と影の芸術 土田康彦展
7月18日→9月3日 軽井沢ニューアートミュージアム（長野県）⑥

●ヴェネチアン・ガラス 光と影の芸術 土田康彦展
（千住 博展 同時開催）
9月6日→9月12日 渋谷・東急本店 8階 美術画廊（渋谷区）②
【最終日は17時閉場】

●テレビ放送 BS-TBS
「職業としての芸術家論」
放送日 8月20日 23:00～23:30 8月27日 23:00～23:30
*2週にわたり放送します。

千住博、土田康彦、二人の芸術家に、それぞれの創作活動を通じ、何を感じ、何を思い、どんな決断してきたのかを問ひかけ、芸術家という職業、生き方に迫ります。